

鹿児島流

# 熱いハートの医師 育てます



奥十曾溪谷のエドヒカンザクラ（伊佐市） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

## 私の臨床研修医時代

南風病院 うえのまち まさと  
糖尿病・内分泌内科 上ノ町 優仁

出身校 ラ・サール高等学校▶九州大学

私から皆さんへのメッセージは「基本を大切に学び続けて下さい」です。私は鹿児島を出て武蔵野赤十字病院で初期研修を受けましたが、場所は関係ないと思っています。指導医の先生方や同期に恵まれ、あっという間に2年間が過ぎました。ある時、自分が主治医として治療を行った脳梗塞の患者さんがいました。しかし日に日に状態が悪くなっていき、不安で何度も足を運び、できることがないかと調べ、上級医にも相談しましたが、結局亡くなってしまいました。自分のせいで亡くなってしまったのではないかと、もっと勉強しなければ、と感じたことが今でも鮮明に残っています。皆さんも色々な経験をして、挫折や達成感などを味わうと思います。初めのメッセージは研修中に指導医の先生からいただいた言葉でした。卒後7年目の今、改めて大事なことだと実感しています。慢心することなく、困ったときこそ基本に立ち戻り、患者さんと向き合ひましょう。自ら調べましょう。周りの先生たちと対話しましょう。そして一歩ずつ成長していきましょう。



出身地 鹿児島市

## 指導医の思い出



出身地 静岡県

たむら ゆきひろ  
田村 幸大

出身校 浜松北高等学校 ▶ 長崎大学

勤務先 ▶ 大隅鹿屋病院

研修時代の思い出としては1年目の夏頃から一人で当直をしなければならなかったのですがERで受け入れた患者さんが検査中に突然心室細動になってしまい、慌てて挿管をして除細動をかけてICUIに入れたことがありました。それまで一人でそこまで対応したことはなかったのになんとかなると同時に、イメージトレーニングとして急変時の流れについて、本を読んでおいて良かったと感じました。

私が研修医だったことと比べると、今の研修医はよく勉強していると感じます。その上で、積極的に多くの経験を求めて動いてもらいたいです。

研修医時代は幅広く多くのことを学べる貴重な機会です。今後の人生でこれだけ多くの診療科をローテーションして、何でも質問できるという環境はおそらくありません。この機会を有効に活用して良い医師として今後も成長していただけることを期待しています。



出身地 鹿児島市

とくなが ひろやす  
徳永 紘康

出身校 池田高等学校 ▶ 鹿児島大学

勤務先 ▶ 鹿児島市医師会病院

私は、現行の臨床研修制度が導入される1年前の2003年に鹿児島大学神経内科(旧3内科)に入局しました。指導医のもとで神経内科疾患と呼吸器内科疾患が主体の専門研修を受けながら、医師としての素養を身につけました。はじめのうちは、何をやるにも時間がかかり、いつの間にか深夜になっていることが多かったです。数ヶ月ではありましたが、当院の消化器内科と新杏病院で循環器内科の研修を受ける機会もありました。消化器内科では腹部エコーや消化管内視鏡の使い方も教えてもらいました。新杏病院では、早朝より院長先生に循環器内科の基本を一から指導していただきました。研修期間中には神経内科のスタッフとして関連病院に勤務するだけの基礎だけに留まらず、医師としての心構えを教えてもらっております。もちろん、その後も専門的な指導を受け、現在、日常診療をつつがなく行っています。



出身地 鹿児島市

みやた まさあき  
宮田 昌明

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 鹿児島大学

勤務先 ▶ 鹿児島市立病院

1986年に鹿児島大学を卒業後、鹿児島大学第一内科に入局し、大学病院で研修を開始しました。田中弘允教授の回診の時に同教授から「何がノイエス(新しいこと)ですか?」と聞かれるので、論文を読んで回診に備えていました。また、「患者さんは教科書であり、患者さんから多くのことを学べるので、1例、1例を大切に下さい」と教わりました。途中、鹿児島市立病院脳外科で3ヶ月研修し、脳卒中は勿論のこと外科処置、挿管、麻酔も教えて頂き、3~4日毎に当直して急患対応も学び、最後には慢性硬膜下血腫の手術を執刀させて頂いたことを覚えています。今は研修期間に多くの科を回るの、消化不良にならないよう目的意識を持って頑張ってください。私は研修医時代に医局の先輩から「患者さんのためにも看護師さんは大切に下さい」とチーム医療の大切さを教わった事が、その後の診療に役立っており、感謝しています。



出身地 山口県

こまつ まさなり  
小松 真成

出身校 下関西高等学校 ▶ 宮崎医科大学

勤務先 ▶ 鹿児島生協病院

当時は初期臨床研修制度が必修化されたばかりでした。今の勤務先でもある鹿児島生協病院で、怒涛の2年間を過ごしました。当時の経験と記憶は体と頭に刻み込まれ、とりわけ離島医療はとても大切な原風景として残っています。まわりのサポートのおかげで、激しい濁流をなんとか泳ぎ抜くことができました。

多くの人からいろんなことを聞いて悩むかもしれませんね。自分も大いに悩みました。でもどこに居ても、他と比べ過ぎずそこでできることに集中することが、いい研修をする上で最も大事な心がまえです。

最後に、ウィリアム・オスラー先生の格言をおくります。“Care more particularly for the individual patient than for the especial features of the disease” ある疾患の一部分だけではなくて、ひとりひとりの(全体)をケアしましょう。これからの時代は、さらにこの意味合いが増していきます。どこかでこの言葉を思い出していただけると嬉しいです。

あなたのこれからを応援します!

# 研修医の声



出身地 鹿児島市

ふじい ひろとし  
藤井 啓世

出身校 鶴丸高等学校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島県立大島病院

県立大島病院で研修を始めて、早くも1年が経とうとしています。

大島病院は奄美群島内で可能な限り医療を完結させることを目指しており、かぜや肺炎といった一次救急のcommonな疾患から、脳卒中・心筋梗塞といった二次・三次救急の重症な症例まで、幅広い疾患を経験できます。一度に担当する患者さんも多すぎず少なすぎず、各診療科での研修や救急当直で、一例一例を大切にしながら充実した日々を送っています。わからないことがあれば、診療科の垣根を超えて気軽に質問しやすく、どの先生も熱心に教えてくださいます。

これから2年目になり、新しい1年目の研修医が入ってきます。どんなメンバーが入ってくるのか、自分に教えられることがあるのかドキドキと不安でいっぱいですが、この1年間で学んだことを後輩へ伝えつつ、また新しいメンバーで切磋琢磨しながら研修していきたいと思っています。



出身地 沖縄県

すなかわ ゆうみ  
砂川 雄海

出身校 久留米大学

研修先▶霧島市立医師会医療センター

研修医になり早くも1年が経過しようとしています。この1年間は初めて経験することの連続であり、私の人生の中でもとても濃い1年間だと思います。

初めのうちは何も出来ない自分が現場にいることが申し訳ない気持ちになることも多々ありました。少しずつ現場にも慣れ、研修医として受け身の姿勢で学ぶのではなく、一人の医師として責任ある診療を行えるようになりたいと思うようになりました。そして指導医の先生方はじめ、多職種のスタッフの方々がフォローしていただける安心感の中、採血などの穿刺手技以外にも、エコーや内視鏡カメラなどたくさんの手技も経験し、様々な診療科を回りながら忙しい毎日があっという間に過ぎていきます。

長いようで短い2年間、一生のうちで失敗を恐れずに学べる唯一の2年間。この研修の期間を通して、医師としても人としても成長できるように日々頑張っていきたいと思っています。



出身地 鹿児島市

よね みきこ  
米 未紀子

出身校 志學館高等部▶福岡大学

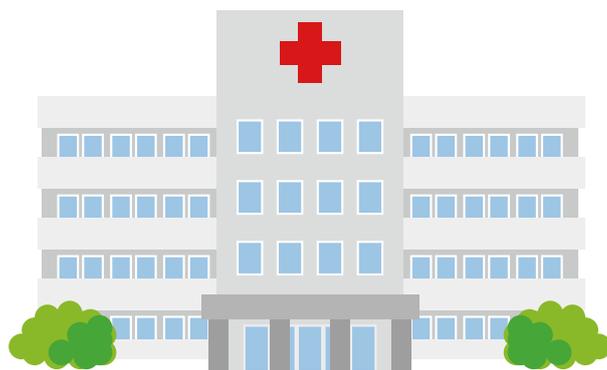
研修先▶鹿児島医療センター

鹿児島医療センターで研修を始めて一年が経とうとしています。

研修当初はカルテの使い方も分からず慣れないことの連続で不安な日々でしたが、上級医の先生方の丁寧なご指導、二年目の先生方や周りの医療スタッフの皆様の優しいサポートのおかげで経験を積ませていただき少しずつですが出来ることが増えていきました。

様々な科で研修させていただき新たな症例を担当する度に、自分の知らない事がたくさんあることを痛感するとともに医師という仕事のやりがいを感じています。

次年度から二年目に入りますが、知識をより深めることは勿論のこと、広い視野で行動したり様々な観点で物事を考え、一年目の先生を少しでもサポートできるよう日々研修に励みたいと思っています。





## 第20回鹿児島県臨床研修医合同研修会を開催しました

1月25日(土)に、臨床研修医や医学生の皆さんが、本県で医師としてキャリアを形成していくことをサポートするため、『第20回鹿児島県臨床研修医合同研修会』を開催しました。

当日は、臨床研修医をはじめ153名の関係者が出席し、県内の臨床研修医7名が、これまでの経験等を発表したほか、県内で専門研修中の専攻医3名が、自身の体験に基づいたアドバイス等を発表しました。

また、「医師として勝つために—君はどう生きるか—」と題して、小説「泣くな研修医」の著者である総合南東北病院外科医長 中山祐次郎先生による医学講演が行われました。

参加した研修医からは、「同年代の先生の症例発表はとても刺激を受けた」、「将来も見据えて考えを見直すきっかけになると思う」、「キャリアの異なる3人の先生の話が聞け、将来の想像の助けになった」、「今後の過ごし方、学び方を考える機会になった」、「中山先生の講演が聴けて良かった」など好評をいただきました。



県内の初期研修医が、自分が経験した症例について発表を行いました。



中山先生の熱のこもった講演に会場が沸きました。

## 県外医学生等出前セミナーを開催しています!!

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

このセミナーは医学生からの要望に応じて、随時、無料で開催しております。

県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができるため、参加者からは好評をいただいております。

お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

E-MAIL: iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL: 099-286-2581



## イベントライブラリ ♪♪協議会のイベント情報♪♪

現在、協議会で予定しているイベントの開催・参加情報は次のとおりです。詳細は、事務局までお問い合わせください。多数のご参加をお待ちしています♪

○eレジフェア東日本(日程:令和2年5月24日(日),東京ドームシティプリズムホール)

○レジフェス福岡(日程:令和2年5月31日(日),福岡国際会議場)

○県外医学生等出前セミナー(随時開催 希望があれば県外どこでも伺います。お気軽に事務局までご連絡ください。)

## 鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局:鹿児島県庁 暮らし保健福祉部 医療人材確保対策室内)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5552

<http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/doctorbank/kyougikai/index.html>